

口 絵

発刊のことば

木祖村長 武重 善博

凡 例

第一章 木祖村の原始 古代……………1～48

はじめに……………3

第一節 大昔のヒトと生活……………4

一 考古学へのアプローチ……………4

(1) 考古学とは 4／(2) 遺跡とは 4／(3) 埋蔵文化財保護

とは 5／(4) 時代区分 5

二 各時代の概要……………6

(1) 旧石器時代の概要 6／(2) 縄文時代の概要 7／(3) 弥

生時代の概要 9／(4) 古墳時代の概要 10／(5) 奈良時代の

概要 10／(6) 平安時代の概要 10／(7) 中世以降 11

第二節 木祖村の遺跡分布の概要……………12

一 木祖村の遺跡分布の特徴……………12

二 木祖村の遺跡……………16

第三節 木祖村における考古学的調査……………17

一 考古学的調査の始まり……………17

二 初の住居跡の発見(小木曾 深沢遺跡)……………18

三 高校生による発掘(小木曾 柳沢遺跡)……………21

四 緊急発掘調査(藪原 大洞遺跡)……………26

五 近世山伏塚の発見(小木曾 五月日山伏塚)……………29

六 集落跡の発掘調査(小木曾 深沢遺跡第二次発掘調査)……………32

第四節 原始 古代の人々の暮らし……………45

一 縄文時代の人々の暮らし……………45

二 弥生時代以降の人々の暮らし……………47

第二章 中世のおもかげ……………49～100

はじめに……………51

第一節 木曾の荘園と文化……………52

一 木曾の莊園を發展させたもの……………52
(1) 吉蘇村は郡北 52 / (2) 南北二様の發達 52 / (3) 木曾氏の勢力が南下 54

二 大吉祖庄……………54

(1) 大吉祖庄の地名について 54 / (2) 大吉祖庄の位置について 55 / (3) 大吉祖庄の名称と中原氏 55

三 小木曾庄と眞壁氏……………55

(1) 小木曾庄 55 / (2) 地頭眞壁氏 56 / (3) 小木曾庄の本拠

57

四 木曾路の開発と文化……………58

(1) 莊園時代の地名 58 / (2) 泉坂山の岑をめぐる論争 58 / (3) 田ノ上觀音と聖觀音菩薩像 60 / (4) 吉田 神出より出土の八稜鏡 60 / (5) 菅と衣更著神社 61 / (6) 翁像の山の神 62

第二節 義仲の生い立ち……………63

一 父の死……………63

二 駒王丸、木曾へ……………64

(1) 悪源太 64 / (2) 実盛の情 64 / (3) 窮鳥の声 64

三 中原兼遠の館跡……………65

(1) 兼遠の館 65 / (2) 義仲元服 66

四 義仲のプロフィール……………66

(1) 少年のころの義仲 66 / (2) 大夫坊牛鞋録 67

五 義仲出兵まで……………67

(1) 成長後の義仲 67

六 市原の戦い……………68

(1) 令旨 68 / (2) 一志茂樹の概括 68 / (3) 関東の地固め 68

七 横田河原(千曲川)の戦い……………68

(1) 義仲拳兵 68 / (2) 読み本のなかから 69 / (3) 義仲の下文 69 / (4) 背後の頼朝 70

八 俱梨迦羅谷の戦い……………70

(1) 燧城の攻防 70 / (2) 俱梨迦羅谷 70 / (3) 火牛 71

九 義仲入京……………71

(1) 続々と京の都へ 71 / (2) 平家の都落ち 72 / (3) 嫌われる義仲軍 72 / (4) 寿永の宣旨 72 / (5) 義仲のクーデター 72

十 粟津の松原……………73

第三節 義仲の足跡……………74

一 鳥居峠の硯水……………74

(1) 硯水の伝説 74 / (2) いろいろな伝説 74 / (3) 矢立について 76

二 義仲の一鍬塚……………76

三 兼光の末裔……………77

四 隠籠ヶ原 野中の隠し畑……………77

五 古畑伯耆重家と古畑十右衛門……………77

(1) 古畑伯耆重家 77 / (2) 古畑十右衛門 78

六 義仲を支えた人々……………79

(1) 中原兼遠 80 / (2) 樋口次郎兼光 80 / (3) 今井四郎兼平 81 / (4) 巴御前 81 / (5) 信濃源氏の武将たち 81

第四節 義仲以後の木曾氏

一 鎌倉末期……………83
 二 南北朝期……………84
 三 室町時代……………84
 (1) 中興の名將 84 / (2) 興禅寺建立 84 / (3) 義元 85
 四 戦国時代……………85

第五節 戦国時代の鳥居峠

一 鳥居峠の位置と地形……………86
 (1) 概観 86 / (2) 現在の道 86 / (3) 峠の地形 87
 二 鳥居峠をめぐる戦国時代の情勢……………87
 (1) 木曾氏の流れ 87 / (2) 峠は防衛の要 87 / (3) 武田氏信濃進攻 87 / (4) 木曾氏の防備 88 / (5) 武田氏の木曾再攻 89 / (6) 木曾氏の降伏と和睦 90 / (7) 武田氏の配下となる 90 / (8) 武田氏から織田氏へ 91 / (9) 『木曾考』に見る鳥居峠の戦い 92 / (10) 信長の死と小笠原氏との戦い 92 / (11) 秀吉に誼を通じる 93
 三 古戦場としての鳥居峠……………94
 (1) 鳥居峠古戦場碑 94 / (2) 天文十八年の戦いと塩沢 95 / (3) 天文二十四年の信玄の木曾進入 97 / (4) 天正十年の鳥居峠の戦い 98 / (5) 狼煙台 100

第三章 尾張藩の木曾支配と藪原 荻曾 菅 ……101 / 196

はじめに……………103

第一節 秀吉以後の木曾……………105

一 秀吉の木曾支配……………105
 二 関ヶ原の戦いと木曾衆……………106
 三 家康の木曾支配……………108
 四 尾張藩の木曾支配機構……………110

第二節 木曾代官山村氏……………112

一 山村氏の家系……………112
 二 山村氏の格式……………115
 三 山村氏の家臣……………117
 四 山村氏木曾支配のしくみ……………119
 五 山村氏の財政……………121
 六 山村氏の屋敷……………122

第三節 宿駅としての藪原宿……………124

一 中山道から中山道へ……………124
 二 藪原宿の概観……………125
 三 藪原宿の成立と宿の概要……………125
 (1) 『木曾巡行記』に見る藪原宿 126 / (2) 「中山道宿村大概帳」に見る藪原宿 127

四	宿と村の構成	127
五	藪原宿における戸口 職業	128
	(1) 戸口の変遷	128 / (2) 職業別戸数 128
六	本陣 脇本陣	129
七	宿役人とその任務	131
	(1) 庄屋	131 / (2) 問屋とその支配 132 / (3) 年寄 132 /
	(4) 伝馬役と歩行役	132
八	宿役人の手当	134
九	宿場の諸施設	136
	(1) 一里塚	136 / (2) 高札場 137 / (3) 防火用高塀 138
第四節 伝馬制度と助郷		
一	伝馬制度のはじまり	139
二	木曾の助郷	140
三	人馬の賃銭	142
四	宮ノ越宿への加助郷	145
五	藪原在郷と荻曾村からの助郷	145
第五節 昔の旅と宿場		
一	木曾路の旅	147
二	旅の諸施設	147
	(1) 旅籠と木賃宿	147 / (2) 茶屋 149 / (3) 岡船と馬宿 150
三	庶民の旅	150
四	通行手形	150

第六節 和宮の通行と藪原宿		
一	和宮と公武合体の政策	153
二	藪原泊まりの大行列	154
第七節 追分としての藪原宿と鳥居峠		
一	飛驒街道と藪原宿	159
	(1) 飛驒街道奈川道の発達	159 / (2) 境峠を往来した奈川の牛方 160
二	江戸時代の鳥居峠	161
第八節 藪原在郷と荻曾 菅 吉田		
一	木曾谷の村々	163
二	藪原在郷の成立と吉田	163
三	荻曾村内「吉田」	164
四	藪原在郷の概要	165
五	菅村 荻曾村の概要	167
	(1) 菅村	167 / (2) 荻曾村 168
六	村の役人と役割	168
	(1) 庄屋	168 / (2) 組頭 百姓惣代(百姓代) 169
七	五人組制度	171
第九節 年貢 課役と土地制度		
一	年貢	173

(1) 「享保の検地」以前 173 / (2) 藪原村の村柵 175 / (3) 享保九年の検地 177 / (4) 本村関係の年貢納高 180

二 課 役……………184

(1) 課役の性格 185 / (2) 慶長七年御年貢高 185 / (3) 課役はみんなで 187 / (4) 公役の多かつた藪原村 188 / (5) くんじ役 農兵夫役 188 / (6) 萩會村の役費用 189

三 土地制度……………190

(1) 木祖村の土地とその種別 190 / (2) 享保九年の検地と本村の土地 192 / (3) 田畑の「永代売渡禁止令」 193 / (4) 入会地 193 / (5) 地租改正と萩會村 195

第四章 尾張藩の木曾山支配と味噌川 笹川山……………197 / 262

はじめに……………199

第一節 尾張藩の木曾山支配……………200

一 木曾の境界と林野……………200

(1) 境界を考える 200 / (2) 早くから開発が進められた木曾北部 200 / (3) 鞍形境界の成立 202

二 木曾山支配の前提……………202

(1) 戦国木曾氏の際の支配 202 / (2) 秀吉による支配 204

三 家康から義直による支配へ……………205

(1) 山村道祐の任用 205 / (2) 木年貢の制度 207 / (3) 増大し続ける木曾材需要 207

四 尾張藩の林政改革……………209

(1) 林政改革の背景 209 / (2) 木曾山巡見 210 / (3) 寛文の林政改革 210 / (4) 寛文以後の林政改革 213 / (5) 享保の林政改革 215 / (6) 切畑への制限 216

第二節 明山と入会権……………218

(1) 明山 218 / (2) 入会 219

第三節 巢山と御鷹匠役所……………221

(1) 巢山 221 / (2) 歴代將軍と鷹狩 222 / (3) 巢主と御鷹匠役所 223

第四節 木曾山と柚……………227

(1) 柚と日用 227 / (2) 柚と柚組 229 / (3) 柚の仕事 229 / (4) 萩會村の柚 229 / (5) 柚の道具 230 / (6) 柚と信仰 231

第五節 木曾式伐木運材法と日用……………232

(1) 木曾山の運材 232 / (2) 日用と運材法 232

第六節 山林の取締りと盜背伐……………234

(1) 山林の取締り 234 / (2) 本村の事例 235

第七節 味噌川 笹川の水の利用……………239

一 味噌川 笹川と松本平……………239
二 明治以前の鉢盛山用水路……………239

(1) 用水路工事の推移	240	(2) 工事の出願と裁許	241	(3) 費用見積り等経費について	242	(4) 工事の経過	243	(5) 伐越 伐荒らし 水路変更等	244	(6) 大脇正蔵と一己の勘弁	248	(7) 荻曾村と大脇正蔵	249	(8) 鉢盛山用水路放棄とその後	252
--------------	-----	--------------	-----	------------------	-----	-----------	-----	-------------------	-----	----------------	-----	--------------	-----	------------------	-----

三 明治以後の用水路……………254

(1) 明治七年「木曾山水路」工事完成	254	(2) 木曾山水路の管理	255	(3) うち続く水騒動	255	(4) 終わりに	256
四 笹川の堰土手と和田堰……………257							

(1) 「笹川の堰土手」の話	257	(2) 細島の古老よりの聞き書き	258	(3) 堰土手の水と和田堰	259	(4) 和田堰と和田の人々	261
----------------	-----	------------------	-----	---------------	-----	---------------	-----

第五章 農業と諸産業の発達……………263-266

はじめに……………265

第一節 用水路の掘削と新田開発……………266

一 西山原の開発……………266

(1) 開発の先駆け	266	(2) 明治期	266	(3) 昭和期の開発	268	(4) 西山原開発の碑	271
------------	-----	---------	-----	------------	-----	-------------	-----

二 大原 諸木原 金山用水と菅村水路……………274

第二節 江戸末期の農業の姿……………281

一 儉約定書や儉約触に見る村民の生活……………281							
二 「木曾の村方の研究」に見る農業経営……………282							

(1) 百姓年内農業之事	282	(2) 耕地面積	284	(3) 小木曾村 青木巖農業メモから	288
--------------	-----	----------	-----	--------------------	-----

第三節 木曾馬の生産……………289

一 木曾馬の優秀性……………289

(1) 古代馬のDNA	289	(2) 木曾馬の特質と環境	290
-------------	-----	---------------	-----

二 山村氏の産馬行政……………291

(1) 木曾の産馬と巢鷹	291	(2) 毛付物成	292	(3) 毛付駒制度	292
--------------	-----	----------	-----	-----------	-----

三 木曾駒生産頭数……………295

(1) 本村における馬の頭数	296	(2) 木曾谷の駒生産頭数	296
----------------	-----	---------------	-----

四 木曾馬市と馬小作制度……………298

(1) 木曾馬市開設のいきさつ	298	(2) 荻曾村「当歳駒改帳」	299	(3) 馬小作	300
-----------------	-----	----------------	-----	---------	-----

五 明治以後の馬事管理……………300

(1) 明治初頭の馬飼育頭数	301	(2) 馬の放牧	301	(3) 産牛馬組合	302
----------------	-----	----------	-----	-----------	-----

第四節 諸産業と産物……………304

一 諸産業に見る村の姿……………304

二 産業の奨励……………306

三 「木曾産物留書」などに見る木曾の諸産物……………308

(1) 「木曾産物留書」に見る木曾谷の産物	308	(2) 「御国産吟味之留」(安政年中)に見る木曾谷の産物	309	(3) 木曾谷諸産物	309
-----------------------	-----	------------------------------	-----	------------	-----

四 「明治七年中物産取調書」に見る木祖村の産物…………… 312

五 酒造業…………… 313

第五節 木櫛とお六櫛の生産…………… 316

一 木櫛の概観…………… 316

二 櫛の始まりとその伝播…………… 316

(1) 櫛と材の産地 318 / (2) 木曾木櫛の発祥 320…………… 316

三 木櫛製造技術の移入…………… 321

(1) 広瀬・蘭から藪原・奈良井へ 321 / (2) 藪原宿における木櫛製造の始まり 323…………… 321

四 「お六櫛」の伝説と由来…………… 325

(1) 伝説としての「お六」 325 / (2) 文献に見る「お六櫛」 328…………… 325

五 「お六櫛」の改良と発展…………… 331

六 木櫛の材料と種類…………… 333

(1) 木櫛の材料 333 / (2) 木櫛の種類 334 / (3) 塗り櫛と飾り櫛 335 / (4) 「尾濃信江御領分産物」に見る櫛の種類 338…………… 333

七 木櫛の生産と販売…………… 339

(1) 木櫛の生産高と工賃 339 / (2) 木櫛の販路と収益 342 / (3) 櫛商いの実際 346…………… 339

八 八品社と櫛問屋…………… 348

(1) 八品社 348 / (2) 櫛問屋 349…………… 348

第六章 災害と騒動…………… 357

はじめに…………… 359

第一節 凶作と飢饉…………… 360

一 木曾谷を襲った主な凶作 飢饉…………… 360

(1) 高冷地と不足する食料 360 / (2) 木曾谷を襲った大きな飢饉 361 / (3) 享保の飢饉 361 / (4) 天明の飢饉 363 / (5) 天保の飢饉 364…………… 360

二 天保の飢饉と菅村…………… 366

(1) 困窮が続く菅村 366 / (2) 飢饉の概要 367…………… 366

三 藪原宿における天保の飢饉…………… 370

第二節 火災…………… 372

一 火災の実際…………… 372

二 火災に対する統制…………… 374

三 藪原宿の防火設備 組織…………… 377

(1) 防火 消防設備 377 / (2) 組織 379…………… 377

四 元禄の大火と防火高堀…………… 380

(1) 元禄の大火 381 / (2) 広小路をつくる 381…………… 380

第三節 騒動…………… 385

一 明和の木曾騒動…………… 385

(1) 騒動の経過 385 / (2) 騒動の原因と結果 387 / (3) 藪原宿 388…………… 385

岡田弥平太と米の流通…………… 388

二 慶応の木曾騒動……………392

- (1) 騒動の経過 392 / (2) 騒動の原因と大商人 野口庄三郎
- 396 / (3) 木曾騒動と获曾 藪原 399

第七章 街道文化と村を支えた人々……………403 / 476

はじめに……………405

第一節 寺子屋と庶民文化……………406

- 一 江戸時代末期における教育……………406
- 二 私塾 寺子屋……………406

- (1) 藪原・小木曾・菅の私塾・寺子屋 406 / (2) 信州戸倉の「恭安舎」に学んだ人々 407 / (3) 中村元恒に学んだ人々 407

三 家庭の教育……………408

- (1) 「家之納方實際ヲ載」 408 / (2) 「家内用心并慎方」 408

第二節 文化人の往来と交流……………410

一 詩歌 俳諧を通して……………410

- (1) 岡田忠保 410 / (2) 酒井抱一 411 / (3) 俳諧や民謡を楽しむんだ人々 411 / (4) 歌舞伎と浄瑠璃 412

二 木曾代官山村氏とのつながり……………412

三 文化人の来村とその作品……………413

- (1) 願王和尚の書と石仏師守屋貞治 413 / (2) 大僧都性谷等順
- 414 / (3) 藤田嗣治と近藤浩 415 / (4) 平福百穂 416 / (5) 徳富
- 蘇峰 416 / (6) 野上豊一郎・弥生子 417 / (7) 歌人・伊藤左千夫

と周辺の人々 417 / (8) 画家 田代二見 418

四 鳥居峠を越えた文人墨客とその紀行文……………418

- (1) 飯塚正重「木曾路紀行 藤波の記」 419 / (2) 松尾芭蕉
- 420 / (3) 貝原益軒 421 / (4) 大田南畝(通称・蜀山人) 421 / (5)
- 虎斑和尚 422 / (6) 十返舎一九 424 / (7) アーサー・H・クロウ
- 425 / (8) 寺嶋新助 426

第三節 宿場や村を支えた人々……………427

一 藪原宿本陣 脇本陣の位置とその系譜……………427

- (1) 本陣 脇本陣の位置 427 / (2) 本陣の家筋 427 / (3) 本陣の系譜 429 / (4) 脇本陣の系譜 430

二 村方を支えた人々……………431

- (1) 菅村庄屋仁右衛門 431 / (2) 永瀬仁左衛門 433 / (3) 永瀬幸右衛門 435 / (4) 昭和の礎となった人々 437

三 医者との系譜……………440

- (1) 民蘇堂野中眼科医の人々 442 / (2) 「昔の虫封じ」と奥原医院 445 / (3) 勝澤道逸 447 / (4) 宮川家 448 / (5) 深澤永順と深澤榮 450

四 文化を築いた人々……………450

- (1) 江間家の系譜と宮田敏 450 / (2) 歌人 岡田忠保 453 / (3) 藪原の俳人 454 / (4) 歌人 湯川寛雄 455

五 宿場の経済を支えた人々……………456

- (1) 岡田屋 456 / (2) 近江屋 459 / (3) 湯川家(中町)の人々 459 / (4) 葛屋篠原家 462

第四節 ミソガワソウを通して見た尾張本草学者と木曾……464

一 木曾薬種と尾張本草学……464

(1) 木曾薬種の始まり 464 / (2) 尾張本草学の隆盛 465

二 ミソガワソウの和名の由来と命名者……467

(1) 尾張本草学と菅百社の活動 467 / (2) 史料に見るミソガワソウの記述 468

三 ミソガワソウが本草学者に注目された理由……471

四 シーボルト、マキシモヴィッチとミソガワソウについて……473

五 三村森軒「薬草見分信州木曾山道中記」に見る味噌川谷……474

第八章 神社 寺院と修験……477 / 524

はじめに……479

第一節 神社……480

一 葦原地区の神社……480

(1) 「祖俗一隅」に描かれた杜寺 480 / (2) 葦原神社 482 / (3) 八幡宮 488 / (4) その他の神社 489

二 小木曾地区の神社……489

(1) 概観 489 / (2) 諏訪神社 490

三 菅 吉田地区……492

(1) 菅地区の概況 492 / (2) 吉田地区の概況 493 / (3) 衣更著 495

神社 493 / (4) 吉田神明宮 495

第二節 寺院……497

一 極楽寺……497

(1) 概略 497 / (2) 極楽寺本堂附棟札 499 / (3) 極楽寺山門

の棟札 501 / (4) 庭園 502 / (5) 仏像 503 / (6) 観音堂

503 / (7) 宝物 504 / (8) 妙見様 505 / (9) 境内の石造物

505 / (10) 極楽寺代々の住職 505

二 田ノ上観音……507

(1) 田ノ上観音堂 507 / (2) 聖観音菩薩立像 509 / (3) 鰐口

510 / (4) 境内三十三所観音と石造物 510

三 永谷観音（中屋の御弥堂）……511

四 菅村の薬師堂（医王殿）……512

五 吉田の指月庵……513

六 浄龍寺……516

第三節 山伏塚と修験……517

一 修験とは……517

(1) 山岳修業を中心とした宗教 517 / (2) 木曾谷に住んだ修験

たち 517 / (3) 修験の大峰登山 518

二 木祖村内に住んだ修験たち……518

(1) 顕龍院 518 / (2) 宮本坊 万光坊 518 / (3) 宝寿院（千寿

院） 518 / (4) 大学院 519 / (5) 万蔵院 520 / (6) 甚蔵坊 520

三 本村山伏塚の被葬者……520

(1) 五月日山伏塚の被葬者 520 / (2) 鳥居峠山伏塚の被葬者 521

四 葦原宿の年中行事と宝寿院……521

五 御嶽講と宝寿院……………523

第九章 木祖村の地名考……………525
550

はじめに……………527

第一節 木祖村の地名一覽……………528

一 土地台帳に見る木祖村の小字名……………528

二 土地台帳にない地名……………529

第二節 主な地名とその由来……………531

一 木會 木祖村 藪原 小木會 菅……………531

(1) 木會 531/2) 木祖村 531/3) 藪原 532/4) 萩
會 小木會 532/5) 菅 534

二 主な小字とその周辺……………535

(1) 吉田 535/2) 塩沢 535/3) 翁像 535/4) 藁
原 536

三 木祖村に見る主な地名のおこり……………536

(1) 「沢」「谷」「渡」 536/2) 「野」「原」「平」「屋」 537/

(3) 「牧」と「蒔(マキ)」 537/4) 「クチ(口)」「クボ(久
保・窪)」「ホラ(洞)」 538/5) 「タンボ(丹防・田甫)」「田」

「畑」 540/6) 「キリヤマ」と「ホソキリ」 540/7) 「ア
ラ」と「藤切」 540/8) 「オシマサマ」と「クワバサマ」 540/

(9) 「高まわり」と「鷹まわり」 541/10) 「光沢」と「三沢」

「水沢」 541

四 木祖村の特色ある地名……………542

(1) カイト(垣外・垣内) 542/2) 永谷 542/3) 半野・飯

米原 543/4) 床並(沢) 543/5) 百々向(ドドメキ・ドウム
キ) 543/6) 花ノ木 543/7) 五月日と寺平 544/8) 辺見

屋敷と屋敷原 544/9) あやめ池 545/10) 斧ノ沢 545

第三節 山と峠と川……………546

一 山と峠……………546

(1) 鳥居峠と峠山 546/2) 境峠 546/3) 神谷峠 547/4)

風吹峠 547/5) 鉢盛山と鉢盛峠 547

二 主な川や沢の名の由来……………548

(1) 木會川 548/2) 味噌川 548/3) 笹川 549/4) 菅川
と早稲栗橋 549

第四節 消えゆく地名……………550

資料編 木祖村歴史年表……………551

参考文献

「木祖村誌 歴史編(上)」関係者名簿

関係機関および資料提供 協力者一覽

あとがき

索引(上 下巻)